真田で楽しく！元気に！暮らしたい人のためのフリーペーパー

真田 活き活き ふるさと通信

いきいき♪

第 43号　２０１５年　２月　１日発行【真田地域に全戸配布】

各地でどんど焼きが行われました。

時報から見た近代史

第４回　長村編№1　洪水と冷害

若林　幸正

１.昭和２７年の大洪水と昭和２８年の未曾有の冷害を時の時報から見る!!

＊昭和２７年８月発行（第９５号）抜粋

長村の局部的災害は大きく、８月５日午後７時頃から降り出した豪雨は、真田区を中心に十林寺、石船、戸沢、横尾、横沢区外長村一円に荒れ狂った水魔のゆくところ、田畑の流失、家屋の浸水、地崩れ、土砂の押出、道路の欠損等大損害を引きおこした。

●真田区　　長谷寺奥岩井堂沢から押出した洪水は、田畑を流し松尾敏氏、松尾盛一氏、内海源内氏等の水車小屋、納屋、牛小屋を流し猛然と木村環治氏、大井勇氏、松尾外重氏等の各家を襲い、消防団も手をやくさまだった。午後１１時頃には、達魔堂沢から押出した洪水は、石塚作次郎宅の床間を流したが、洪水の引けるのを待つ以外に術が無かった。

●十林寺区　　この地区では、２０日前の豪雨の被害の上に再び洪水の被害となり、今春開通した村道が一夜にして踏みにじられた。田毎の土砂の押込みは目もあてられない現状となる。村下の村道、農道もメチャクチャの大被害となる。

●石舟地区　　真田方面から押出した洪水は、県道をのみこみ道下にある家屋は床下浸水となり、中でも宮下之総氏宅は、浸水甚だしかった。

●戸沢区　　部落の真中を流れる用水路が満水となり、あわせて戸沢神社横を流れる谷川と合流して、道下の家屋を襲った。この洪水で軽傷２名、床下浸水６件の被害を出す。

●横尾区　　大柏木沢から押出した洪水は、土手をくずして、下流の古式ゆかしい「タイコ橋」を流し村中神社附近の橋をことごとく流す被害となる。

●横沢区　　角間方面から押出した洪水は、県道を流した洪水と合流し、久保為一氏、久保義人氏、久保いわる氏宅では床上まで浸水し、家具が水に浮きだす始末だった。（一部省略　原文のまま）

部落別被害状況

部落名	作付面積	被害面積	被害率
大日向	218.6反	170反	78%
角間	55.9反	40反	71%
横沢	114.1反	100反	86%
真田	202.0反	149反	74%
十林寺	118.3反	80反	68%
石船	79.2反	70反	87%
戸沢	149.7反	87反	59%
横尾	273.0反	137反	52%

（原文のまま）

２.昭和２８年水穂冷害凶作の現況を見る

＊昭和２８年６月発行（第６８号）　抜粋

〇今年の天候は不順、冷害、病虫害など多発のおそれ、水田管理に警告!!

＊昭和２８年８月発行（第６９号）　抜粋

〇穂首イモチは必ず出る。防除ボルド一液で

・６月７日の悪天候が原因でイモチ病多発し村農業委員会は、緊急にハンド・ブラザー機を１０台購入し防除対策にあたる。

＊昭和２８年１１月発行（第７１号）　抜粋

〇巳年の冷害、凶作をいかに乗切るか!!　作況指数３１、供出農家は１０数戸

〇６０年ぶりといわれることしの凶作、昔のように死ぬか生きるかといったような極端なことはないまでも、今後の生活への不安はますます増大し、どのようにしてこれを乗り切るか？村でもすでに凶作対策委員会が組織されて協議されている。（原文のまま）

●コラム　　最近の異状気象にも何か考えさせられる物がある。「災害は忘れた頃にやってくる。」これらの出来ごとも後世に引きつぎ日頃からの注意する習慣が必要だ。

真田地域包括支援センターだより

平成 27 年 2 月

＜男性の料理教室＞

平成 26 年 12 月 3 日に真田地域包括支援センターと福寿クラブの共催により、男性の自立支援を目的として真田総合福祉センターにおいて「男性の料理教室」を開催しました。「男性が簡単に作れる自慢料理」をテーマに、管理栄養士の高田先生に料理の基本の部分も教えて頂きながら、調理・試食・後片付けまで行い楽しい教室となりました。

参加者の皆さんからは「材料をそろえるのが大変だと思う。」「家ではこんなにうまくいかない。」「手作りはやっぱりおいしい。」「緊張したけど楽しくできた。」等の感想をいただきました。

☆メニュー☆
あっさり中華丼　（402ｋcal）
れんこん玉のふわとろスープ（79kcal）
たっぷりきのこサラダ(122kcal)
フルーツの寒天デザート（111ｋcal）

また、食生活改善推進協議会の方には講師補助としてご協力いただきました。

＜音楽レクリエーション＞

平成 26 年 12 月 11 日に真田老人福祉センターで行いました「音楽レクリエーション」の様子をご紹介します。

今回はボランティアの成澤秀敏様にご指導いただき、「ふるさと」「岸壁の母」「千の風になって」「昴」等の曲に合わせて、身体を動かし楽しいひとときを過ごしました。

音楽レクリエーションは、地域の高齢者の方の介護予防の一環として、偶数月の第２木曜日 10:45 より真田老人福祉センターで開催しておりますので、皆様お誘いあわせの上どうぞお出かけ下さい。

真田地域包括支援センター　　TEL　72-8055　FAX　71-5740　（真田総合福祉センター内）

我が家のペット自慢

今回は、下横道の堀内満波さんのペットを紹介します。

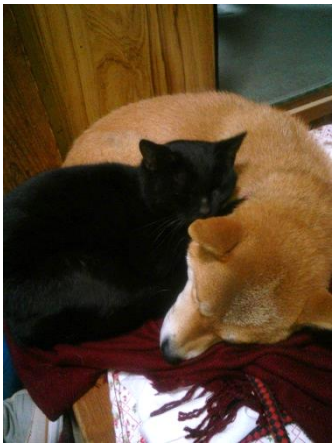
きさちゃんは、２月生まれの３才になる、お母さんワンちゃんです。名前の“きさ”は如月（きさらぎ）から名付けられました。愛称は“きーちゃん”です。

一昨年の２才の時に満波さんのお家に来ました。

きさちゃんは、冒険が大好きなワンちゃんです。よく冒険の旅に出かけます。旅に出かけては、ご近所の方々に助けられ、我が家に帰ってきます。そんな冒険大好きの、きさちゃんは、とても人懐こい部分があり、満波さんはいつも心配で仕方ありません。

きさちゃんのお友達、ねこの“くろちゃん”は、もともとは野良ねこでした。が、きさちゃんは優しいところがあり、一生懸命毛ずくろいをして綺麗にしてあげました。また、自分のご飯をくろちゃんにあげるほどの優しいきさちゃんです。

昨年には、ＳＢＣ「わが家のあいどる」からの取材がありました。今年、出るそうです。　（半田・望月）



広告募集中です。
金額は、
１回 3,150 円、３回でお得な 6,300 円
継続掲載も可能です。
詳細は編集部までお問い合わせください

真田町の社長さん　第 16 回

リレー訪問

（株）トライ　取締役社長　　清水　篤　さん

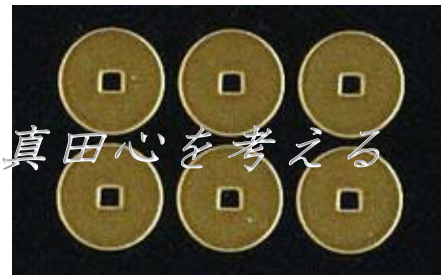
今回の社長さんは【株式会社トライ】の清水社長です。
某清掃会社から独立し、平成８年に開業。まさに掃除のプロ。
仕事内容はビルメンテナンスで、建物の清掃や設備管理が主な仕事であり私どもアザレアンもお世話になっております。
某清掃会社では当時出来る人が少なかったエアコンクリーニングを任されそこで慢心することなく独自にさまざまな所から学びレベルアップしていき父親が亡くなったことで奮起し独立を考えたそうです。

休みの日はどう過ごされているか尋ねると「土日休んでるサービス業はないでしょ」と即答。
仕事が趣味ですかと尋ねると「それは格好つけすぎでしょ」と笑って否定していましたが
「働いていた方が面白い」そうです。

モットーは「顧客満足度１００％」
顧客とは依頼主の会社ではなく、そこを利用している利用者。そこに来る人の目線に立って仕事に取り組んでいるそうです。
しかしそれを実現することは難しく、社長曰く「清掃は１００％はない業種」であり自分たちの目で見たものと、他の人たちの目では見えるものが違い、全ての人を満足させるのは難しく奥が深いものだそうで「日々お客様から勉強させてもらってます」と。

今回インタビューさせていただき、清水社長は人一倍自分の仕事に誇りを持ち、向上心を持った方だと感じました。
それを一番感じたのは、仕事をしていくにあたり困ったことを尋ねた時です。

社長は「自分たちの技術以上のものを頼まれた時」と答えられ、しかしその時はどこから技術を吸収してでも請け負うそうで「出来ません！は言わない」と力強く答えていただきました。
「掃除は自分に合っているし面白い」と言い切り、現状に満足せず日々新しいことを学ぶ姿勢。
当たり前のようで誰しもが出来ることではありません。出来ないと言わずトライしていく姿。見習っていきたいものです。　　（栗林・小林）



第１４回　真田三代の活躍

常田　軍三

五、村上義清上田へ進出

②砥石崩れ（その一）

甲斐の武田信玄と坂城の村上義清が相見えて戦った天文１７年（１５４８）の上田原合戦の２年後、雌伏していた信玄は、中信と東信への両面作戦を開始します。まず、中信作戦は、塩尻峠の合戦で中信の一大勢力の小笠原軍を破って長時を筑摩に封じ込めました。そしてさらに、居城の林城を攻め落とし坂城城の村上義清の下へと追いやったのでした。一方東信作戦では佐久に転戦して、反旗を翻した諸将を下して再び佐久を平定したのでした。

こうして武田信玄は、北信濃制圧の思いを募らせ、秋になると、軍議を開いて、「目指すは砥石の城じゃ。これを攻略し、義清の息の根を止めてやるわ」信玄は、諸将を前に決意を述べました。「それにこのたびは、板垣信方・甘利虎泰の弔い合戦でもある。そちたちも意を決して戦いに臨まれよ」信玄は、上田原合戦の無念さをかみ締めて、出陣の命令を下しました。

さて、武田軍の砥石城攻略戦は、天文１９年８月１９日諏訪上原城に集結した約５千人の軍勢による出陣式の後、砥石城に向かい、戦いの幕が切って落とされました。途中、小県の長窪城に滞在して砥石城を偵察させ、攻略作戦を立てさせました。その上で、砥石城の城際に布陣したのは、９月３日と伝えられています。

この間、真田幸隆は村上派の北信濃の諸将に対して、調略による謀略戦を展開しています。しかし、効果のほどは目に見えてきません。砥石城攻略戦は膠着状態の様相になりました。明らかに武田軍は攻めあぐねる状況に陥ったのでした。９月２８日深更、信玄は１カ月余にわたる攻城戦から撤退を決意し、苦しい戦いから離脱せざるを得ませんでした。

（次号に続く）

編集後記

- はじめての取材でとても緊張しましたが、取材先のお宅がとてもフレンドリーな方々で、安心して取材ができました。もっと取材に出かけ経験を積んでいきたいです。　（半田）
- 今回初めて“真田町の社長さん”取材に同行し、全く知らない業種の話を社長さんより直接お聞かせいただき、大変興味深かった。（小林）

発行元：「真田 活き活きふるさと通信」広報委員会　　事務局:高齢者総合福祉施設アザレアンさなだ内
〒386-2201 上田市真田町長 7141－1　有線 2111
TEL 0268-72-2781　FAX 0268-61-4010　E-mail　keijinfukushi@azarean.jp
ホームページ　http://www.azarean.jp

イベント情報や、通信を読まれてのご意見、ご感想をお寄せください。